

私たちの活動を
知ってください

チョウトンボ



北潟湖自然再生協議会の取り組み ～北潟湖の恵みを再発見し、未来に遺そう～



▲ ヨシガモ

北潟湖自然再生協議会では、北潟湖やその周辺の自然環境の保全・再生に取り組んでいます。

令和6年9月から11月にかけて開催された「北潟湖 水と水辺のワークショップ（全3回）」には、地域の皆さんや協議会活動参加者など延べ94人が参加しました。また、子ども版ワークショップでは地元の小学生48人から意見を聞き取りました（一部、高校生の意見も含む）。

2月22日に行われた報告会では、ワークショップで話し合われた内容を整理し、今後の方針などをお伝えしました。その一部をご紹介します。



▲ 子ども版ワークショップ



▲ ワークショップ



▲ 北潟湖再生協議会



◀ キタノメダカ



北潟湖はあわら市の北部に位置し、面積2.14km²の県内で3番目に大きな湖です。海と直接つながっているため、淡水と海水が混ざり合う「汽水湖」です。

北潟湖の目指す姿に向かって

水環境の管理

北潟湖の水質向上に向け、北潟湖水門（開田橋水門）*1の管理を見直します。

- ①水門が開いている時間を延長する。
- ②水門の開放時間が変更された場合、湖内の塩分濃度などのモニタリング調査を実施し、影響を継続的に検証する。

どんな変化があるの？

- ・湖水と海水の入れ替えが進むことで、湖内の濁りや臭い（悪臭）が緩和されます。
- ・シラスウナギ（ウナギの稚魚）をはじめ、海から遡上する魚類が増えます。
- ・湖内の塩分濃度が多少高くなります。それに対応して湖内のエリアごとに塩分濃度の目標値を設定することで、淡水環境に生息する生物の生息環境も維持します。

※1：北潟湖水門（開田橋水門）ってなに？

北潟湖の最下流部には、水害や塩害を防ぐための水門が設置されており、日本海から流れ込む海水が制御されています。これまでの研究により、湖内に海水が流れ込む仕組みがおおよそ解明されてきました。塩分濃度は水中に生息する生きものに大きな影響を及ぼすため、目指す生態系の姿や湖の利活用の方向性を十分に議論しながら、水門を管理していく必要があります。



▲ シオカラトンボ

▲ ミサゴ 今回紹介した内容に加え、湖の水質負荷低減の方策や、コンクリート護岸を活かした生態系機能の向上、さらに地域での取り組みの輪を広げるための方策についても意見交換を行いました。今後、具体的な取り組みを始めていくときには、地元住民や関係者などと話し合いながら進めていきます。

会員募集

一緒に活動に参加してくれる人や団体を募集しています。希望する人や興味のある人は事務局までご連絡ください。北潟湖自然再生協議会事務局（生活環境課内） ☎ 73-8018 ✉ seikatsu@city.awara.lg.jp

生きものの写真提供：川崎 隆徳 氏、組頭 五十夫 氏、齊藤 貞幸 氏（五十音順）

市内河川と北潟湖の水質調査

市では、市内を流れる河川および北潟湖の水質調査を実施しています。令和6年度に実施した調査の結果をお知らせします。今後も、調査結果や蓄積したデータを活用し、環境保全に努めます。

問合せ 生活環境課 環境 G ☎ 73-8018

令和6年度 河川水質分析調査結果 令和6年9月13日 晴れ

調査河川	調査地点	水域類型	pH	BOD	SS	DO
			-	mg/L	mg/L	mg/L
竹田川	下新橋	B	7.5	1.7	2	5.3
	浦安橋	B	7.6	0.9	5	6.7
	高間川末端	B	7.7	0.5	1	9.9
	水屋橋	B	7.4	1.0	4	6.0
熊坂川	田島川水門口	A	7.7	0.5	1	8.0
	南部開発（株）排水口	A	7.5	0.5以下	6	6.1
権世川	笹岡橋	A	7.8	0.5以下	1	8.2
	治田橋	A	7.4	1.1	1	7.7
宮谷川	中川橋	A	7.5	0.6	1以下	7.9
	中流（権世市野々区内）	A	7.6	0.5以下	1以下	8.4
観音川	水口橋付近	B	8.0	0.7	5	10.0
下金屋川	辻川末端	B	7.6	0.8	1	8.7
	細呂木橋	B	7.4	1.0	2	6.3
環境基準	末端	A	7.4	0.5以下	1以下	7.8
		A	6.5以上	2以下	25以下	7.5以上
		B	8.5以下	3以下		5以上



▲ 市ホームページ



▲ 環境省ホームページ

※水域類型とは、水質や利水状況などを考慮して、水域ごとに環境基準の目標レベル（類型）を定めたもの。

※A・Bは、環境省の定めた基準により振り分けられたもの。詳しくは、環境省のホームページをご覧ください。

※環境基準とは、人の健康を保護し、環境を保全するために維持することが望ましい基準のこと。※赤字は環境基準値を超えた値を示す。

河川水質分析調査の結果、一部の地点で溶存酸素量（DO）が環境基準を超えましたが、全体としては良好な水質が保たれています。

令和6年度 北潟湖関係水質分析調査結果

令和6年7月22日 くもり 【前期】

調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン
単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
小牧末端	7.2	2.3	1以下	1.7	0.023
赤尾末端	6.9	1.9	1	3.8	0.016
沢川末端	7.5	3.1	3	0.44	0.051
滝川末端	7.5	3.2	3	0.43	0.027
辻川末端	7.6	2.6	3	1.2	0.030
観音川	7.6	3.8	2	0.74	0.034
細呂木橋	7.6	3.8	2	0.74	0.034
北潟湖	7.9	6.2	6	0.70	0.068
環境基準	6.5以上 8.5以下 (B)	5以下 (B)	15以下 (B)	0.6以下 (IV)	0.05以下 (IV)

令和6年10月15日 くもり 【後期】

調査地点	pH	COD	SS	全窒素	全リン
単位	-	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
小牧末端	7.1	2.3	2	2.2	0.017
赤尾末端	7.3	1.7	2	4.3	0.011
沢川末端	7.7	3.1	1	0.66	0.061
滝川末端	7.8	3.4	2	0.53	0.040
辻川末端	7.6	2.7	3	2.4	0.035
観音川	7.6	3.6	5	1.3	0.036
細呂木橋	7.6	3.6	5	1.3	0.036
北潟湖	8.5	7.8	18	1.1	0.096
環境基準	6.5以上 8.5以下 (B)	5以下 (B)	15以下 (B)	0.6以下 (IV)	0.05以下 (IV)

※B・IVは、環境省の定めた基準により振り分けられたもの。詳しくは、環境省のホームページをご覧ください。

北潟湖関係水質分析調査の結果、多くの調査地点で全窒素や全リンの数値が環境基準を上回り、北潟湖では多くの測定項目で環境基準を満たさない結果となりました。

■ 水素イオン濃度（pH）

水溶液の酸性やアルカリ性の度合いを表す指標。pH7のときは中性、7を超えるとアルカリ性、7未満では酸性を示す。

■ 生物化学的酸素要求量（BOD）

河川の汚濁の度合いを示す指標の一つであり、値が高いほど汚濁が進んでいる。

■ 化学的酸素要求量（COD）

湖沼や海域の汚濁の度合いを示す指標の一つであり、値が高いほど汚濁が進んでいる。

■ 浮遊物質（SS）

水中に浮遊または懸濁している粒子状物質の量を指す。これが多いと透明度が低下し、景観を損ねる原因となる。

■ 溶存酸素量（DO）

水中に溶解している酸素の量を指す。値が低いと水生生物が窒息する原因となり、水質の浄化が遅れることがある。